

# 1、日常活動報告

## ①日常活動について

来室から帰宅まで、放課後ルームを拠点に、小学校校庭、体育館等で職員が見守るなか、安全で自由に過ごせるよう環境を整備し、児童の見守り及び関わり合いを行った。また、児童の来室直後には学習タイムを設けるなど、勉強・学習できる環境整備も行った。このほか、児童との関わり合いの中では学年の違いに配慮しながらも異学年での交流が生まれるよう働きかけを行った。

## ②企画活動について

以下の通り企画活動を行った。主に工作や運動遊び、レクリエーションの要素を持った活動を中心に企画活動を実施した。室内での活動は、密を避けるよう部屋ごとの参加にする等の工夫をしたうえで実施した。7月21日～8月31日は新型コロナウイルス感染症拡大防止（梅木小学校で感染者増加により学校と協議の上決定）のため、企画活動は中止とし、自由遊びのみとした。

### 5月

実施日	イベント名	参加人数	内容
16日～20日	石けんづくり	50名	大切な人へのプレゼントづくりで石けんをつくった。

### 6月

実施日	イベント名	参加人数	内容
6日～10日	わくわく工房	36名	普段は使えない材料を用意し、自由に工作を楽しんだ。
15日	オセロ返し	71名	雨天のため、各部屋ごとにオセロ返しを楽しんだ。

### 7月

実施日	イベント名	参加人数	内容
11日～15日	スライムづくり	52名	スライムづくりを楽しんだ。

### 9月

実施日	イベント名	参加人数	内容
28日	ドッジビー	79名	ドッジビーを楽しんだ。

### 10月

実施日	イベント名	参加人数	内容
11日～14日	ランチョンマットづくり	16名	藍染でランチョンマットづくりを楽しんだ。
19日	宅急便リレー	75名	荷物を運ぶリレーを楽しんだ。

### 11月

実施日	イベント名	参加人数	内容
7日～11日	ぷっくりプラバンづくり	58名	ぷっくりプラバンづくりを楽しんだ。
30日	逃走中	126名	工夫を凝らしたおにっごっこを楽しんだ。

### 12月

実施日	イベント名	参加人数	内容
12日	大なわとび	71名	6グループに分かれて大縄とびを楽しんだ。
21日～26日	しめ縄づくり	44名	しめ縄づくりを楽しんだ。
28日	大掃除	16名	年末に部屋の大掃除を行った。

### 1月

実施日	イベント名	参加人数	内容
16日～20日	革のキーホルダーづくり	14名	レザークラフトとしてキーホルダーづくりを楽しんだ。
25日	障害物リレー	73名	さまざまな障害物を用意し、リレーを楽しんだ。

### 2月

実施日	イベント名	参加人数	内容
13日～17日	しゃかしゃかカードづくり	24名	ビーズ等の材料を使い、カードづくりを楽しんだ。
20日	宿かえおに	82名	鬼に捕まらないように宿かえおにを楽しんだ。

3月

実施日	イベント名	参加人数	内容
8日	長距離リレー	70名	校庭と幼稚園の園庭を使ってリレーをして楽しんだ。
14日～20日	マスクケースづくり	37名	クリアファイルやシールなどでマスクケースを作った。

## 2、行事報告

事業計画に基づき定期的に行事を実施した。行事は四季の変化を感じ取り、日本の伝統や自分の住む地域に愛着を持つことを目的に企画した。

実施日	イベント名	参加人数	内容
4月13,19日	わくわく体験ツアー	49名	1年生を対象に放課後子ども教室の説明をした。
5月11日	ウェルカムイベント	109名	全学年で進級を祝い、さいころリレーを楽しんだ。
9月14日	THE ぼうさい	80名	体育館へ避難後、避難所生活について考えた。
10月26日	レッツ！ハロウィンタイム	91名	仮装をしてダンスを楽しんだ。
11月16日	ONE RUPE	80名	つなひきと応援合戦を楽しんだ。
12月14日	年末お楽しみ会	143名	おもしろゲームを実施して楽しんだ。
1月11日	新年おめでとう会	92名	お正月の由来を学び、すごろくを楽しんだ。
2月1日	鬼退治大作戦	88名	節分の由来を学び、鬼退治を楽しんだ。
3月13日	卒業おめでとう会	雨天中止	雨天の為レクリエーションは中止となった。

## 3、特別活動報告

梅木小学校の学区域内に居住する、(または北区内に居住する) 特別な専門技術を有する方を講師とする活動、保護者も一緒に楽しめる活動、学校外をステージする活動を実施した。

実施日	活動名	参加人数	内容
6月25日	バドミントン	5名	地域講師によるバドミントン教室を実施した。
7月6日	ボッチャ	15名	北区スポーツ推進委員の皆さんにボッチャを教えていただき、楽しんだ。
9月24日	スポーツチャンバラ	16名	講師指導の下、スポーツチャンバラを楽しんだ。
10月5日	ボッチャ	24名	北区スポーツ推進委員の皆さんにボッチャを教えていただき、楽しんだ。
11月26日	韓国語講座	9名	講師指導の下、韓国語を教えていただいた。
1月28日	バドミントン	10名	地域講師によるバドミントン教室を実施した。
2月8日	ボッチャ	18名	北区スポーツ推進委員の皆さんにボッチャを教えていただき、楽しんだ。
2月18日	かけっこ教室	23名	東京都放課後支援プロジェクトとして実施。講師による走り方の指導を受けた。

## 4、クラブ活動報告

### 【卓球クラブ】

目的：クラブを通して、スポーツの楽しさや仲間作りを支援し、技術の向上も目指す。

登録人数：17名

活動開催回数：16回

延べ参加人数：210名

内容：講師による卓球指導。

講師指導日に講師から技術指導を受け、講師不在日は職員が対応した。

大会について：新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各種大会が中止となった。

## 5、実行委員会報告

放課後子ども総合プランの事業、運営について話し合う場として定期的を開催した。内容としては活動報告、様々な課題についての協議等を行った。メンバーは学校関係者、地域関係者、PTA関係者、管轄児童館関係者であった。

	実施日	参加人数	主な議題
第1回	6月21日	20名	・登録状況、利用状況報告 ・事業計画 等
第2回	9月22日	18名	・登録状況、利用状況報告 ・冬季運営について 等
第3回	12月13日	18名	・登録状況、利用状況報告 ・今後の予定について 等
第4回	2月13日	18名	・登録状況、利用状況報告 ・次年度活動予定について

※参加者数は法人職員含む

## 6、その他の活動報告

### (1) 広報活動

#### ① わくわく梅木ひろばだより

毎月発行している梅木放課後子ども総合プランの情報誌でその月の企画や行事を掲載した。学校を通じて全校児童に配布した。また実行委員会の方、地域施設等、子どもわくわく課を通じてすべてのわくわく☆ひろばに配布した。

#### ② ホームページ

梅木放課後子ども総合プランは独自のホームページを持っており、北区のホームページとリンクしている。ホームページには施設の概要や最新情報などを載せており、施設を利用したことのない人や遠方の人まで幅広い対象に梅木放課後子ども総合プランをアピールできる場となった。また、自然災害などの有事の際の情報発信の場としても活用した。

#### ③ 元気です

社会福祉法人東京聖労院の広報誌。年3回の発行。梅木放課後子ども総合プランで行われた行事の報告などを載せている。

### (2) 防災訓練

利用者の安全を守るため、防災計画をたて、訓練を行った。有事の際に混乱なく避難できるように訓練した。また、毎月実施している梅木小学校の避難訓練に職員が参加した。

実施日	活動名	参加人数	内容
4月25日	避難訓練(火災)	80名	給食室より火災が発生したと想定し、各部屋から校庭へ避難する訓練を行った。
6月17日	避難訓練(地震)	82名	震度6弱の地震を想定して、各部屋から校庭へ避難する訓練を行った。
6月29日	避難訓練 (地震・火災)	84名	震度6弱の地震を想定し、近隣より火災が発生したと想定。各部屋から非常口を使用して避難した。
7月29日	避難訓練(火災)	58名	給食室より火災が発生したと想定し、各部屋から校庭へ避難する訓練を行った。
9月1日	避難訓練 (地震)	8名	職員間で地震を想定した際の避難経路確認等をミーティングにて再確認した。
9月14日	避難訓練(地震)	80名	震度6弱の地震を想定して、各部屋から校庭へ避難する訓練を行った。
10月3日	避難訓練(火災)	10名	職員間で火災を想定した際の避難経路確認等をミーティングにて再確認した。
11月21日	避難訓練 (地震・火災)	31名	震度6弱の地震を想定し、近隣より火災が発生したと想定。各部屋から非常口を使用して避難した。
12月19日	避難訓練(火災)	66名	給食室より火災が発生したと想定し、各部屋から校庭へ避難する訓練を行った。
1月18日	避難訓練(地震)	84名	震度6弱の地震を想定して、各部屋から校庭へ避難する訓練を行った。学習タイム時を想定して実施した。
2月17日	避難訓練(地震)	71名	震度6弱の地震を想定して、各部屋から校庭へ避難する訓練を行った。
3月28日	避難訓練(地震)	61名	長期休業中の震度6弱の地震を想定して、各部屋から校庭へ避難する訓練を行った。

### (3) 苦情・事故対応

事故については0件、苦情については4件あった。初期対応と児童同士のトラブル対応について再確認をした。また、軽微な怪我、苦情ではないが問い合わせなどがあり、その都度丁寧に対応することができた。

### (4) その他

- ・弁当対応について

土曜日や学校休業日は毎回弁当対応を行い、その様子や人数(内訳を含む)を記録し、北区教育委員会事務局子ども未来部子どもわくわく課に報告した。また、夏場などの気温が高い日には、食中毒の予防に努めた。学童クラブ・特例利用で作年度から引き続き保護者が実施する宅配弁当の対応を行った。

- ・児童の再登校について

一度に限り児童の再登校を可能とする活動を行った。

## 1、梅木あおばクラブ（学童クラブ）とは

梅木放課後子ども総合プランの事業の一つとして、北区から業務委託を受け、西が丘児童館管轄のもと学童クラブ事業（放課後児童健全育成事業）を行っている。日常生活と健全育成の場として、小学校内に専有の部屋と担当の職員を配置し、運営を行っている。

- ①利用時間）月曜日～金曜日 下校～午後 6 時  
 延長育成 午後 6 時～午後 7 時  
 学校休業期間 午前 8 時 15 分～午後 6 時  
 延長育成 午後 6 時～午後 7 時  
 土曜日 午前 8 時 15 分～午後 6 時
- ②定 員）40 名

## 2、1日の児童の動きについて

【学校開校日】

学校終了後～	登室
	学習タイム
	自由遊び
16:00	おやつタイム
	おやつ終了
	自由遊び
16:45	帰りの会
17:00	帰宅開始
	コース帰り①
17:30	コース帰り②
18:00	コース帰り③
	※以降延長育成
19:00	帰宅終了

【学校休業日】

8:15	登室
	部屋遊び
9:15	学習タイム
	自由遊び
12:00	昼食
	片付け・休憩
13:00	自由遊び
16:00	おやつタイム
	おやつ終了
16:45	帰りの会
17:00	帰宅開始
	コース帰り①
17:30	コース帰り②
18:00	コース帰り③
	※以降延長育成
19:00	帰宅終了

## 3、学童クラブの運営について

毎日職員ミーティングの時間を設け、児童について・学校や地域のことについてなどの情報を全職員で共有するよう努めた。また、学童クラブ職員間のミーティングも毎日行い、児童の些細な変化等についての情報を職員で共有した。

### ①児童との関わりについて

活動場所には必ず職員を配置し、児童が安心して生活・活動ができるよう配慮した。学習タイム（5時間授業又は午前授業日及び学校休業日は30分）では、集中して取り組めるよう環境に配慮し、班で取り組むことを基本とした。

学習が終わった児童から順次、本読みをするように促した。環境整備をし、一目でど

こに何があるか児童自身で把握することができるようにした。そうした事でより自発的に片付けや、環境整備の声掛けも児童同士で出来るようになっていた。そのほか、学童クラブ独自の行事などを設け、児童がクラブに対して帰属意識を持てるようにした。

#### ②おやつ提供について

保護者から毎月徴収しているおやつ代を使用し、おやつの購入提供を行った。毎日午後4時頃（各学年の下校時間によって異なる）からおやつの時間とした。栄養面に配慮し、児童が十分なエネルギー補給をできるように工夫した。また、アレルギー児童に関しては入会説明会時等に別途、おやつ提供に関する保護者と面談の機会を設けた。（※おやつ持ち込み対応）

月1回の誕生会の日には、間食費内で飴を購入した飴のネックレスを渡し、その月の誕生児童をお祝いした。

#### ③保護者との関わりについて

毎日の連絡帳や、保護者会、個人面談を通して日々の児童の様子を伝え、よりよい運営を行うために情報を共有した。

#### ④安全の確保について

保護者と協力して、出欠の把握を徹底するとともに、児童に対しても、安全確保の意識が高まるように日常的に指導した。また、梅木あおばクラブ第一に在籍する児童の居住地域が三方に分かれていた為、児童の帰宅時の安全を図れるようにコースも3つに分けた。

4月、10月～2月はシルバー人材センターのパトロールがポイントまでの見守りを行った。

時間は①16:30 ②17:00 ③17:30 ④18:00の計4回。

## 4、児童の様子について

登室の際は、手洗い・消毒・検温をし、身支度を整えた後に学習タイムを実施した。学習タイム終了後は、学童クラブ室内や放課後ルームでゲームや工作をして過ごした。学童クラブではごっこ遊びをしたり工作活動をしたりと多くの遊びが展開された。また、わくわく梅木ひろばの放課後ルームには、学童クラブ室には無い本や遊具がある為、放課後ルームで過ごすことで児童の遊びの幅を広げられた。また交友関係も広がりより充実した遊びが展開されるようになった。室内遊びだけではなく、学校の校庭や体育館を使用しながら運動遊びを自由に行った。

学童クラブの行事に加えて、わくわく梅木ひろばの行事にも参加することで、学年を超えての幅広い交流を積極的に図ることができた。また、ミニ外出で公園や北ノ台スポーツ多目的広場へ出かけ、普段あまり経験できない遊びや学びを体験する機会を作った。

学校との連携を少しでも密に行い、児童に関する共有等、学校を越えた交流をする機会を設けた。また、必要に応じて子ども家庭支援センター、児童相談所等、関係機関と情報共有の機会を設け、児童及び家庭への支援を行った。